

第16回琵琶湖地域の水田生物研究会を開催します

概要

琵琶湖博物館では、12月21日（日）に、第16回琵琶湖地域の水田生物研究会を開催します。本研究会では、プランクトンから魚類、鳥類まで水田に関わる生物を対象としたさまざまな研究発表が行われます。今回は口頭発表7題、ポスター発表12題の発表があります。

さらに、ミニシンポジウムでは、「温暖化防止と生物多様性のトレードオフを超えて」というテーマで、水田農業の温暖化対策と生物多様性との関係性についての講演を行います。

田んぼの生き物に興味がある方はぜひご参加ください。

日時・参加方法等

研究会名：第16回琵琶湖地域の水田生物研究会

日 時：2025年12月21日（日）10:00～16:40

場 所：琵琶湖博物館 ホール

○プログラムなどはチラシをご覧ください

○参加申し込み

参加希望の方は下記URLもしくはQRコードよりお申し込みください。

※12月19日（金）が締め切りですが、定員を超えない限り当日申し込み可能です。

<https://forms.gle/zUWe5AovdujTx9dXA>



田んぼの生きもの研究 大集合！

第16回 琵琶湖地域の 水田生物研究会

2025年

12月21日(日)

10:00～16:40

会場

滋賀県立琵琶湖博物館ホール

+ オンライン (ハイブリット方式)

(滋賀県草津市下物町 1091 番地)

会場の定員：200名 (事前予約制)

参加申込：以下のサイトから、12/19(金)まで
にお申し込みください (参加無料)

<https://forms.gle/zUWe5AovdujTx9dXA>

なお会場参加は定員を超えない限り、当日申し込みも可能です。



研究
発表

全国から集まったさまざまな人たちによる、さまざまな田んぼの生き物研究です

一般講演 ① 10:15～11:15 ② 11:25～12:10

ポスターコアタイム 13:10～14:20

ミニ
シンポ
ジウム

14:30～16:30

温暖化防止と生物多様性のトレードオフを超えて

強力な温室効果ガスであるメタンの発生を抑えるために、中干し期間の延長が奨励されています。しかしそのことによって田んぼに水が入っている期間が短くなり、田んぼを初期成長の場とする生きものに悪影響が及んでいます。このトレードオフを超えて行くにはどうすれば良いのか、皆で考えていきましょう。

話題提供

大塚泰介：問題の所在と、これまでにわかっていること

是永 宙・北野大輔：山間地の生き物共生水田における還元障害の抑制

—滋賀県高島市今津町椋川での事例—

船橋玲二：気候変動時代の田んぼの生きものの活かし方を考える

金子信博・渡邊芳倫：水田の生態系機能を生かしたメタン削減対策

■問い合わせ先■

琵琶湖博物館 金尾滋史・大塚泰介・鈴木隆仁

電話：077-568-4811 E-mail：suiden-seibutsu@biwahaku.jp

主催：滋賀県立琵琶湖博物館